

## 第 1 回 伏見出張所管内河川レンジャー運営会議 議事要旨

開催日時 : 平成 16 年 10 月 10 日 (金) 14:00 ~ 16:00  
場 所 : 月桂冠 (株) 昭和蔵ホール  
参加人数 : 運営会議委員 8 名、淀川河川事務所長 1 名、事務局 6 名、傍聴者 9 名

## 1. 決定事項

伏見出張所管内河川レンジャー運営会議 (以下、運営会議という) の代表者には栗山委員に就任していただく。

運営会議の座長には永山委員に就任していただく。

京都伏見ジュニア河川レンジャーにおける平成 17 年度からの新たな取り組みは、永山河川レンジャーに予算の見積りを作成していただき、次回の運営会議で討議を行う。

次回の運営会議からは、京都府・京都市以外の沿川自治体 (八幡市・久御山町・宇治市) からオブザーバーとして参加していただく。

本運営会議の討議内容等は淀川管内河川レンジャー検討懇談会 (以下、検討懇談会という) に報告し、次回運営会議においては、その結果を受けた討議を行う。

## 2. 懇談会の概要

## 「第 4 回 宇治川周辺河川レンジャー検討懇談会」について

事務局より資料の確認および委員の紹介が行われた。また、吉田淀川河川事務所長より「第 1 回 伏見出張所管内河川レンジャー運営会議」の開催に際しての挨拶が行われた。

運営会議について、運営要領の確認

事務局より、「資料 - 1 運営会議資料」を用いて、運営会議の目的について説明が行われた。また「資料 - 2 淀川管内河川レンジャー (試行) 運営要領・同解説」「資料 - 3 伏見出張所管内河川レンジャー運営会議運営要領・同解説」を用いて、「第 4 回 宇治川周辺河川レンジャー検討懇談会」以降の運営要領の修正事項についての確認が行われた。

運営会議代表者、座長の選任

運営会議代表者として、栗山委員が事務局より推薦を受け、運営会議委員より信任された。その後、運営会議代表者より、座長として永山委員が推薦を受け、運営会議委員より信任された。

河川レンジャー任命書の授与

運営会議代表者より、永山河川レンジャー、松岡河川レンジャーに河川レンジャー任命書が授与された。

平成 17 年度河川レンジャー活動計画 (案)

永山河川レンジャー、松岡河川レンジャーにより、「資料 - 1 運営会議資料」を用いて、平成 16 年度河川レンジャー活動の経過報告を交えた平成 17 年度河川レンジャー活動計画 (案) が説明された。

その後、委員による意見交換が行われた。主な意見については「3. 主な意見」を参照。

## 運営会議対象区域における河川レンジャーの展開

山村委員より、「資料 - 1 運営会議資料」を用いて、「運営会議対象区域全域における展開」および「伏見地区における展開」についての説明が行われた。

その後、委員による意見交換が行われた。主な意見については「3 . 主な意見」を参照。

### 3 . 主な意見

#### 平成 17 年度河川レンジャー活動計画（案）

永山河川レンジャーの平成 17 年度からの新たな取り組み例として挙げられている手帳やロゴ入り衣服の配布、機関紙の発行に要する費用はどのように捻出するのか。また、必要な予算額の試算はされたのか。

運営会議で検討後、検討懇談会に報告し、（財）河川環境管理財団より必要経費として予算を計上する。

永山河川レンジャーに簡単な見積りを提出していただき、その活動内容も含め、運営会議で審議することにしたい。

伏見みなと広場は樹木が少なく、自然観察会を行うには物足りない印象を受ける。

伏見みなと広場は地域住民の憩いの場として活用したい。現在は広報が不足しているため、空間が有効活用されていないという印象を持っている。

松岡河川レンジャーの活動に合わせて、植樹をはじめとした三栖閘門周辺整備の予算を計上してはどうか。松岡河川レンジャーがそれらを提案し、それを運営会議で審議するというのも考えてほしい。

憩いの場として活用することに賛成する。ピオトープを整備すれば、子供の学習にも役に立つと思う。

京都伏見ジュニア河川レンジャーで集計しているアンケートで、景観が寂しいという意見がでている。そのため、川沿いに季節にあった植物を植樹し、豊かな河川景観をつくることを計画している。地域での管理体制が整えば、行政の理解を得ることもできると思う。京都伏見ジュニア河川レンジャー活動を通じて、保護者に協力を打診したい。

濠川・宇治川派流は人工河川であり、植樹によってつくられる景観も人工的なものだと思う。自然河川と人工河川では、自然について受ける印象が異なるため、伏見三栖自然観察会等と連携し、両者を比較して体験できるような取り組みがあればよいと思う。植樹については、管理体制が整えば実現は可能ではないかと思う。

人工河川、自然河川という区分けはあまり適切ではないと思う。自然は人間の手が入らなければ荒れる一方であり、人間が手を加えることで美しい景観がくれるものだと思う。

宇治川派流は水量が調節されており、洪水が発生しないところが、自然の河川とは異なっている。永山河川レンジャーには、レンジャー活動を通じて川の脅威などを参加者に伝えてほしい。

河川レンジャー活動の広報は、呼びかけの対象を明確にすることで、効果的なものにできると思う。

夏休み親子歴史教室は、開催まで時間的な余裕があり、広報のタイミングもよかった。歴史教室は準備が不足していたという反省点がある。

早めに募集案内等が準備できれば、伏見区役所が協力する他の企画が行われる際に参加者に伝えることができ、その広報効果は大きいと思う。

山科川周辺改善懇談会は、桃山南地域において地域住民と行政が連携して整備計画を考えるはじめての取り組みであり、松岡河川レンジャーの活動には感謝したい。次年度には、地域住民が納得し、管理に協力できるような整備ができればよいと思う。

ジュニア河川レンジャーは、教育委員会を中心に取り組まれている体験学習（みやこ子ども土曜塾）のような一時的のものとは違ったものにしてほしい。少年消防クラブのようなクラブ組織をつくることができれば、継続的な活動につながると思う。

ボーイスカウトやガールスカウトと連携をとることはできないか。

将来的にはそのようなイメージも持っており、実現に向けた活動をしていきたい。少年消防クラブやボーイスカウト、ガールスカウトの活動については、ヒアリング等によって情報を得ていきたい。

#### 運営会議対象区域における河川レンジャーの展開

伏見出張所管内の河川レンジャー活動が京都市伏見区にとどまっており、活動の範囲をこれからさらに広げていきたいと思っている。次回からは八幡市・久御山町・宇治市よりオブザーバーを運営会議に招き、地域の情報や意見を伺いたい。

沿川自治体は地域についての情報に詳しく、運営会議に参加してもらうのは適切なことだと思う。

第4回宇治川周辺河川レンジャー検討懇談会の意見を受けて、伏見地区における河川管理の仕組みをまとめたため、ご意見をいただきたい。

各施設を操作するときの条件を書くとわかりやすいのではないか。

出水時に宇治川から東高瀬川へ水が逆流することはないのか。

「洪水時」と書かれてあると、堤防が決壊した状況であるという印象をうける。伏見区の雨量が少なくても、他地域での気象条件によっては伏見区に影響が及ぶことがある。どこでどのような気象条件となったとき伏見区に影響が及び、施設の操作が行われるのか気象情報とあわせて整理しておくとういのではないか。

次回の運営会議で、どのように「伏見地区における河川管理の仕組み」を地域住民に伝えていくのか議論したい。